2006 年 9 月 30 日

幕末外交と横浜開港

横浜市青葉区「郷土史の会」主催の公開講座に参加した。講師は横浜市立大学名誉教授　加藤祐三氏である。
内容は、
はじめに　①開国（1854 年）と横浜開港（1859 年）、
1.ペリー来航の背景、①難破捕鯨船保護と漂流民救出、②太平洋横断の蒸気船航路と通商、③米海軍の事情、
2.外交言語と交渉力①幕府「避戦論」と大統領発砲厳禁命令、②1853 年 7 月 8 日、浦賀、”I can speak Dutch”、③1854 年 3 月 8 日、横浜、史上初の日米公式会談、
3.横浜の夜明け、①日米修交通商条約（1858 年）と横浜開港（1859 年）、②交渉条約と「近代国際政治」、③都市横浜の特性
などについてスライドを交えて分かり易く説明された。特に、ペリーと林大学頭との条約内容をめぐる論戦、世界各国の国力比較（列強国、植民地、敗戦条約国、交渉条約国など）、当時のわが国の語学事情、は印象に残った。また、150 年前、戸数９０戸、人口 5000 人の半農半漁の神奈川宿がわが国有数の大都市へ変貌した急速な変化はただ驚くばかりである。特に、横浜の都市としての特異性、すなわち、わが国のほかの都市が独特の城下町の形態から発展し、日本以外の多くの国では城壁に囲まれた内側が都市で、人口増加に伴って城壁を取り除いて発展した（北京、デリー、バクダッド、ベルリン、パリ、ロンドンなど）のに対して横浜は幕末の日米の平和的交渉による横浜開港こそ、今日の横浜の隆盛の原点になっている点で特異であることがよく分かった。